

地域の特性を生かした小中連携による体験活動

ねがい

〈目的〉

小・中の連携による地域の特性を生かした体験活動を通し、自ら考え行動・協力できる場を設定し、「ふるさとを愛し、ふるさとに誇りをもつ」児童・生徒を育てる。

〈内容〉

● 岩黒愉快村 (いわくろゆかいむら)

毎年7月下旬に1泊2日の日程で島内や学校施設を使って宿泊学習を実施しています。約2ヵ月前から児童生徒会が中心となり、愉快村の目標・日程・計画について提案し、各クラスで食事のメニューや活動内容などについて話し合いを行いました。小1から中3までの縦割り班2班で役割分担を行い、異学年が協力しながら活動を進めました。

[いかだ活動]

地域の方をロープワークの講師に迎え、いかだづくりを行いました。実際に海に浮かべて2班でゲームや競争し、小中学生が協力することで達成感を味わうことができました。

[キャンドルサービス]

中学生がリーダーシップを発揮し、計画・運営を行いました。特に、スタンプやゲームは2週間前から中学生が中心となって計画的に練習を行いました。小学校高学年が司会を行うなど、次期リーダー育成にも留意しています。



【いかだ活動=ロープワーク】



【キャンドルサービス (愉快村)】

● クリーンアップ活動

小学生が中心となり、中学生と協力して毎月1回、島内の清掃奉仕活動を行っています。地域の方にも参加を呼びかけ、小学生・中学生及び地域が一丸となって、「ふるさと」の良さを実感しながら、環境美化活動を進めています。

● 「EM」による環境浄化活動

中学生が中心となって、毎週100リットルの「EM活性液」を培養し、島内の環境浄化活動を進めています。また、小学生と協力して、年間を通して学校農園で「EM活性液」を使いながら花や野菜の栽培を行っています。

高まり

〈成果〉

小・中が連携する体験活動を通して、中学生はリーダーとしての役割や次年度への方向性について、小学生は自分自身の成長について、感想に書くことができました。上級生は下級生に気配りすること、下級生は上級生を手本にすることなどが活動の中で見られるようになりました。

今後さらに、「自ら考え行動・協力できる場」を工夫し、体験活動の充実に取り組んでいきたいです。